

1) リアン文京にカームダウンボックスをお届けいたしました



2022年12月14日、社会福祉法人武蔵野会のリアン文京へ、カームダウンボックスをお届けいたしました。

聴覚過敏を抱える自閉症のお子様も多数利用されている施設です。カームダウンボックスの設置により、パニックを起こす前に落ち着くことができる可能性を、担当者の方は大変期待しておられました。

当協会におけるカームダウンボックスのお届けは、この事例で2例目となります。今後も地道に活動を推進して参ります。

リアン文京・・・東京都文京区にある総合福祉センター。「自分を愛するようになあなたの隣人を愛せよ」を法人理念として活動をしている団体です。
ホームページ：<https://team-lien.com/principle/>

2) 第5回サウンドソムリエ検定2級を開催致しました



2022年12月7日、福岡県にて第5回サウンドソムリエ検定を実施致しました。

コロナの影響で受験者は減ってしまいましたが、音の基本だけでなく、音による潜在的な課題を体感頂き、調音・整音に取り組む価値を理解して頂きました。

次回の開催でサウンドソムリエ検定2級の保有者は100名を超える見込みです。

期中にサウンドソムリエ検定1級の開催を目指し現在鋭意準備を進めております。今後も検定での啓発を通して、調音・整音の一般化を進めて参ります。

3)東京都共同募金基金の配分金が決定しました

東京の赤い羽根共同募金

音環境の潜在的な課題の提示、調音・整音による課題解決、課題解決を推進することによる啓発を、社会福祉法人東京都募金会に認めて頂き、東京都共同募金基金から配分金の提供を頂くことが決定いたしました。

賛助会員の皆様から頂いております志と今回の配分金を合わせ、音のユニバーサルデザイン実現に向け、2023年はより活動を推進して参ります。

4)「音のない水族館」開催への想いを取材しました

～北海道小樽市 おたる水族館～

2022年7月2日（土）に北海道小樽市のおたる水族館において、聴覚過敏の方に配慮した「音のない水族館」が開催されたことをご存知でしょうか？

関連する動画や写真は、[北海道放送のYouTube](#)や、[一般社団法人小樽観光協会](#)にアップされていますのでご覧ください。

当協会では、おたる水族館で営業推進担当の梅津さんに「音のない水族館」開催への想いや苦勞された点、新たなご意見を、オンライン取材しましたので皆様にお知らせいたします。

一全国的にも珍しい、「音のない水族館」に取り組まれるきっかけをお伺いできますか？

2019年9月に障がいのある子どもさんを持つお母さんからいただいたメールが始まりでした。メールの内容は、「5歳になる息子がいます、水族館がとても好きなのですが、唯一イルカショーを見る事が出来ません。聴覚過敏という障がいがあり大きな音や音楽を聴くとパニックになってしまうのです。このメールはそれに対して何かしていただきたいという事ではありません。ただ、そういう子どもたちがたくさんいる事を知って頂きたいのです。」というものでした。このメールを見て、スタッフ一同が思ったことは何とかこの息子さんにイルカショーを見てもらうことは出来ないだろうかという事でした。これが「音のない水族館」取組みへのきっかけでした。

一聴覚過敏の子どもたちも安心して楽しめる”音のない水族館”ですが、初めてお取り組みされて苦勞した点はありませんか？

子どもさんを含めて聴覚過敏の方にとって、どういう環境を作ったら安心して水族館を楽しんでもらえるかという事でした。最初に現場スタッフとも話し合い、館内にあるスピーカーからの音、イルカやトドショーでの音楽やMCの音声も全て消すことにしました。ただ、これだけで大丈夫なのかなと思いました。また、イルカショーやトドショーでも動物たちがジャンプやダイビングをした時には大きな音が発生します。これらの音は問題ないのかとも考えました。こういった事を、一つ一つ検証していきました。他の悩みとしては通常の営業の際、落とし物や迷子さんの案内等を館内放送で行っているのですがこれも全て消してしまうと、連絡はどうしたらいいかということがありました。

一 検証というと実際に聴覚過敏の方に現場に来てもらって・・・ということをしたんですか？

メールを頂いたお母さんとお話をして、閉館後の時間帯に子どもさんと一緒に来館いただきました。実際に館内の音、ショーの音や音楽を消して、見て（聞いて）いただきました。その上で、我慢できることやそうではない事を教えていただき、本番に向け対策を考えました。また、落とし物や迷子さんの案内は館内のサイネージ(電光掲示)を利用して表示する、スタッフがメッセージボードを持って館内を走る事として音のない状態でもお伝え出来るようにしました。

一 当日来場された方は何名ぐらいでしたでしょうか？また、その反応を教えてくださいませんか？

私たちも、聴覚過敏の方がどのくらい来館されたか知りたいのですが、正確な数は把握出来ていません。メールをいただいたお母さんの子どもさんもそうですが、外見からは全く判断出来ません。子どもさんに聴覚過敏の障がいを持つママ友のグループがあり、メールを頂いたお母さんから「音のない水族館」があるとグループの皆さんに発信いただき複数来館いただいていたと後になって分かりました。また、当日館内ではイヤーマフ（耳あて）やヘルプマークを付けた子どもさんを通常より多く見かけました。他に、今回は聴覚過敏の方を対象として実施いたしました。音が聞こえない聴覚障がいの方も多く来場されていたことが、身障者手帳を利用して入館いただいていることから分かりました。聴覚過敏の方だけではなく聴覚障がいを持たれている方皆さんが楽しんでいただけていたらありがたいと考えています。

一 広報をするにあたっては、こういったアプローチをされたんですか？

実施前に、新聞・テレビ等の各メディアさんに連絡をしました。取上げていただいたのは地元新聞の北海道新聞と北海道放送の2社でした。北海道放送（TBS系）で放送後に全国ネットのJNNニュースでも取り上げられました。

一 今回初めて開催したことで、課題はありましたか？

原因となる音をなくしたことで、パニックを起こされる方はいらっしゃいませんでした。また他の心配としては、音が一切ないことに対して一般のお客様からクレームが来るのではないかということがありました。大きな告知もできていないので、当館ホームページや水族館入り口に大きく“本日、音のない水族館”の掲示をいたしました。また駐車場では、駐車される方へご説明をし、理解を頂いたうえでご入場いただきました。そうしたこともあり、クレームなく終わることができました。

一 ニュースだとわからなかったんですが、一般の方も普通に入場ができる日だったんですね。

メールを頂いたお母さんからは、「一般の人と区別なく、同じところでショーや水族館を楽しむことが一番大事」と伺っていましたので、敢えて来場者を限定しませんでした。また、館内には「ヘルプマーク」の啓発ポスターを掲示し一般のお客様にも理解を深めていただけるようにいたしました。

一 今後のご計画をお伺いできますか？

今後も継続して実施をしていきたいと思えます。今年は2回の実施でしたが、来年度は4～5回実施出来ればと考えています。

一 今後も是非、継続的な開催を目指してお取り組みされることを応援しております。

～取材を終えて～

初めての開催にあたり、試行錯誤のうえスタッフ一丸となってお取り組みをされたこと、これは我々も非常に学ぶべき点が多いと感じました。みなさんはいかがですか？

取材をしていて印象的だったのは、「一般の人と区別なく、同じところでショーや水族館を楽しむことが一番大事」という聴覚過敏の子どもさんを持つお母さんからのメッセージでした。まさにユニバーサルデザインの考えです。当協会としても音のユニバーサルデザイン実現に向けて、お母さまのような想いを持つ人に寄り添い、少しでも社会が良くなるよう地道に活動を推進してまいります。

5)おわりに

当協会では、今後も「音環境の調整を介して誰もがより豊かな生活を送れる社会を創る」を実現したい世界として活動をし、不定期ですが活動報告を配信して参ります。

皆様の周りに当協会の活動に賛同し、賛助会員となってくださる団体会員様、個人会員様を募集しております。

ご紹介は事務局までご連絡を頂ければ幸いです。

事務局連絡先：isaaa@chouon.or.jp